

子どもへの敬意

「リスペクトする」という言葉は、カタカナ表記の日本語として私たちの普段の生活の中に広く浸透しています。「リスペクト」は、自分にはない優れた資質や能力をもっている人を褒め称える特別な意味で使う場面が多いと感じています。

しかし、英語の respect がもつ本質的な意味は、『相手もっている価値観を認め、それを大切に相手に対する敬意を払う』ということだそうです。

この背景には、その人自身の考え方や価値観、信条やライフスタイルなど、その人だけに属する「個人の領域」を認め、尊重するという欧米の文化があるといわれます。今の言葉でいえば、「多様性を尊重する」という言葉に近いと考えます。これは、個人の考えより集団の空気を優先する傾向の強い日本の文化とは異なるようです。

私は、親や教師も「子どもを respect する」ことをもっと大切にすべきだと考えています。

それは子どもを好き放題にさせることではなく、子ども自身がその子なりの意見や感情をもっていることを受け止める行為です。子どもの意見を軽く見たり、聞き流したり、否定したりすることなく、どんな些細な意見も大切なものとして、親や教師が真摯に受け止める姿勢を示すことです。

私自身も生徒たちと共に過ごした学校生活の中で、一人一人の生徒がふと見せてくれた優しさや思いやり、勇気ある言動、生徒のもつ高い潜在力や創造力に心から敬服したことがたくさんありました。そんな時は、生徒と教師という立場を超えて、一人の人間としてその生徒に対して心の底から敬意を表する気持ちになりました。

日本を代表する国語教育研究家として知られる大村はま先生(実は中学時代の私の恩師でもあります)は、その著書の中でこうお話しされています。

『子どもはほとんど全部教師よりずっと優れていると思って間違いなしです。そういう敬意といいますが、尊敬を心から持って、この宝物を大切にしたいと思います。』さらに大村先生は、『「甘やかし」と「敬意」とはまったく違うと思います』とも言い切っています。

教師がこうした respect する姿勢を見せることは、子どもたち自身が周りの友達や大人の意見や考えを尊重することにもつながっていくはずで、「All teachers respect our students」という学校文化をすべての教職員で育てていければ素晴らしいと思っています。